

受賞作品

【大規模建築部門】

《最優秀賞》

認定こども園 大野幼稚園

設計者：(有)西川建築設計事務所 西川 国夫

施工者：(株)長崎組 井尾建設(株)

《奨励賞》

学校法人金井学園 体育館

設計者：(株)木下設計

木下 賀之・室田 淳一

施工者：村中建設(株)

《優秀賞》

越前市武生中央公園総合体育館

設計者：(協)福井県建築設計監理協会・(有)田辺建築事務所 設計・監理共同企業体

佐々木 基之・田邊 勉・水上 諭

施工者：田中建設(株) (株)キハラコーポレーション

北信建設(株) (株)竹内工務店

《奨励賞》

道の駅 西山公園

設計者：(有)高田建築事務所 高田 健一郎

(有)アーキズム建築設計事務所

瀬戸川 信之

羽場 千尋

施工者：丹羽建設鋼業(株) (株)伍代工務店 (有)淡海建設

(株)富士土建 (株)ガード

【中小規模建築部門】

《最優秀賞》

浜町 一乃松

設計者：(株)走坂建築設計事務所

走坂 俊和

施工者：北信建設(株)

《奨励賞》

はるえ東ファミリー歯科

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所

伊藤 瑞貴

施工者：(株)深谷

《優秀賞》

リノベーション Y BLDG.

設計者：吉田設計

吉田 修二郎

施工者：石黒建設(株)

【住宅建築部門】

《最優秀賞》

福の家

設計者：建築工房 英 HANABUSA

中村 英二

施工者：建築工房 英 HANABUSA

《優秀賞》

越前の住宅

設計者：水上哲也建築設計事務所一級建築士事務所

水上 哲也

施工者：水上建設(株)

《優秀賞》

宝永の平屋

設計者：野路建築設計事務所

野路 敏之

施工者：(株)木だて家

《優秀賞》

長泉寺町の家

設計者：atelier-fos一級建築士事務所

青木 一実

施工者：サカイ建設不動産(株)

## 第8回ふくい建築賞 報告

ふくい建築賞実行委員会  
矢尾 憲一

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計3団体が主催し、福井県の建築業界の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、今年度で8回目の開催となります。募集は前回同様の昨年10月4日～12月17日までで、大規模建築部門（延べ面積が500㎡以上）5点、中小規模建築部門（同500㎡以下）5点、住宅建築部門7点の合計17点（昨年18点）の作品の応募がありました。

今年も県内建築関係9団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ4社の後援をいただきました。心より感謝申し上げます。

一次審査は1月12日応募書類により実施。審査は森 俊偉（としひで）委員長（金沢工業大学名誉教授）、高嶋 猛（たけし）委員（元福井大学講師）、清水 俊貴（としたか）委員（福井工業大学准教授）の3名により慎重な議論を経て、大規模部門4点、中小規模部門3点、住宅部門4点の計11点を二次審査対象作品に選びました。

二次審査は2月11・12日の2日間にわたり審査委員が県内一円の現地を訪れ、直接設計者から説明を受けました。その結果、大規模部門2点、中小規模部門2点、住宅部門4点を最終審査対象作品に選びました。また「学校法人金井学園体育館」「道の駅西山公園」「はるえ東ファミリー歯科」の3点を奨励賞として選びました。

最終審査は3月19日（土）福井県立図書館にて約80人の聴衆が見守る中、公開審査会が開催されました。開催に先立ち、昨年からの建築賞の審査委員をされている清水俊貴（福井工業大学准教授）様より「建築設計の仕事の幅を拓げていきたい」と題した講演会が行われました。設計事務所勤務の頃の担当作品を見せていただきました。

引き続き、最終審査にノミネートされた8作品の設計者による各15分間のプレゼンテーションと質疑応答を経て、公開による熱心な議論が行われた後、部門毎に審査委員による採点と講評が行われました。名誉ある最優秀賞として、大規模部門は「認定こども園 大野幼稚園」（13点）、中小規模部門は「浜町一乃松」（13点）、住宅部門は「福の



審査風景

家」（14点）が選出されました。また優秀賞に大規模部門「越前市武生中央公園 総合体育館」（12.5点）、中小規模部門「リノベーションY BLDG.」（12.5点）、住宅部門「宝永の平屋」（12.5点）、「越前の住宅」（13点）、「長泉寺町の家」（13.5点）の3作品が選ばれました。（ ）内は獲得点数/15点満点）

各部門とも審査委員による作品の評価順が異なり、3者合計の獲得点数は僅差となる公開審査会でした。

審査会の最後に森審査委員長より総評があり、奨励賞作品への評価とアドバイス。また各部門の評価が分かれた要因など、解説をいただきました。4年間審査委員長を務めた感想として、建つ土地の特徴を上手に引出し、「優れた建築」「福井らしい建築」を表現して欲しいと、お言葉を頂きました。

この建築賞も創設以来8年目となり認知度が上がってきました。県民に理解され支持されるよう、この活動を継続していく覚悟です。また、多くの作品の参加が「ふくい建築賞」の原動力です。会員の皆様の来年度の応募をお待ちしています。



授賞式記念撮影

## ■ 第8回ふくい建築賞 総評

審査委員長 森 俊偉（金沢工業大学名誉教授）

新型コロナ禍で、昨年度に引き続き冬場での現地審査となりました。当日は北陸では珍しい位の晴天となったが、冬に備えた生活の様子も合わせ見ながら、訪ね歩くことが出来ました。

評価に当たっては、本賞の趣旨と審査基準に沿っての建築の完成度を問いつつ、施設が建つ場所や地域の特性を抽出・理解し建築に反映しているか／プログラムに前向きな提案や意図があるか／これらを反映しつつ空間構成や表現に提案や意図するものがあるか／施主や施工者とのコラボレーションが適切でうまく可動しているか等を中心に審査し、併せて、各委員毎の評価の力点も尊重しつつ十分に議論して進めるよう努めました。

○まず大規模建築部門については、施設規模の大小、用途種別等々の与条件にそれぞれ大きな差異があり、求められる成果の主課題にも差異がある。故に今回も、評価の中心視座の置き所には苦慮しました。最優秀賞「認定こども園 大野幼稚園」は、南側の表道路に沿って細く長く延びる敷地の特徴をうまく活かし、幅約3mの廊下を長大な立体遊具として機能させつつ、園の活動の中心空間としての賑わいを表通りにも供出。大野の地域性に同化した開放的で楽しい幼稚園となっており、高い評価を得ました。優秀賞「越前市武生中央公園総合体育館」は、求められた機能や性能に十分対処し、併せて細部に渡ってトータルデザインが図られ、バランスと親しみ感のある優良建築となっていました。また開放的なデザインを施した諸空間をうまく外周部に位置させ、周辺環境に対する威圧感の軽減と賑わいの供出を適宜図っている点も評価できるものでした。奨励賞「学校法人金井学園体育館」は、効果的にコストコントロールが為され、屋根形状操作や有機的な素材選択で暖か味のあるエントランス部を創出するなど、無機質な学校体育館にならないよう諸工夫が図られていた。しかし隣接地に対する圧迫感が大きく、下層部でのスケールダウンの工夫が望まれた。奨励賞「道の駅 西山公園」は、開放的で親しみやすさのある道の駅施設としてよくまとめられていた。しかしややせせこましく感じられ、全体

フォルムとして、西山公園のランドスケープと一体化したシンプルでおおらかな表情の方がよりフィットしたのではないかと思えた。

○中小規模建築部門は、例年、施設種別も多種多様で、プログラム内容も変化に富み、プレゼンテーションにも力の籠ったものが多く、興味をそそられる部門でした。しかし今回はやや低調な印象であった。最優秀賞「浜町一乃松」は、準防火地域という現法制下で、現代数寄屋風情とゆるやかで穏やかな振舞いと所作を促す、コンパクトでこまやかなスケール感に包まれた諸空間を創出していました。京都での左官職の経験を持つ施主の知見・眼識力と設計・施工者の技能がうまくコラボレーションし、好結果を生んでいた。優秀賞「リノベーションYBLDG」は、SDGsが問われる昨今ですが、すでに10年前に鉄骨躯体のみを残し、大規模の模様替えを試みた建築。乾式で手軽な材料を多用し、ローコストで軽メンテナンスに徹するなど、一つの明確な取り組み姿勢を示すプロジェクトとなっていました。しかし外廻りの造りや整えにはやや物足りなさを感じた。奨励賞「はるえ東ファミリー歯科」は、内部の待ち合い部はビューが抜け、診察室部も自然光に満たされた快適度の高い空間となっていた。しかし新興住宅地における住民の出会いの場としての軽いシンボル性やパブリック性の付与方策の適否や、外構廻りの味気無さが気になりました。

○住宅建築部門は、今年度も応募件数が多く、かついずれも各住まい手家族が描く固有性のある生活スタイルを反映したメッセージ性の高いもので、激戦となり、結果として入賞作品も多くなりました。最優秀賞「福の家」は、まず第一に、大工を本業とし、設計と施工を為した施主の伝統的民家に対する強い愛情と関心度の高さに感心しました。骨太のしっかりした架構や質感、堅実な性能を持った材料選択や納まり等々、質実剛健な木造家屋の良さが創出され、設計と施工の両面で十分に評価できるものでした。優秀賞「宝永の平家」は、広く重厚な庭園を持つ既存敷地の良さを引き継ぎ、シンプルな2つの矩形を噛み合わせつつ流動的でゆったりと穏やかに展開する住いの空間が生み出されており、好感がもてた。天井裏のヴォリューム感や庭園へと低く水平に抜ける視線の在り方も心地よいものとなって

いた。住い手の生活スタイルとも整合した良作でした。優秀賞「越前の住宅」は、伝統的民家の部分改築。家族を一体化する採光に満ちた内部空間（＝リビング・ダイニング部）が創出され、同時に新旧の架構がぶつかり合うエネルギーな空間が演出された興味ある住宅となっていました。しかしかなり強引な面もあり、旧来諸室の良さをより高める工夫や、既存集落景観の中での在り方等、さらに踏み込んだ検討が欲しかった。優秀賞「長泉寺町の家」は、隣接地（特に裏山としての西山公園）との関係を微細に解説しつつ快適な住まいの空間をセッティングしていました。また部分が自己主張し併存し合う形で空間構築され、多様性を感じさせる生活空間とも成っていた。諸点において前向きに検討したエネルギーの籠った作品でした。しかし、ややデザイン要素過多で、もう少し整理しても良かったのではないかと思えた。

## ■ 第8回ふくい建築賞 講評

審査委員 高嶋 猛（高嶋建築研究所）

### 1. 総評

第8回ふくい建築賞の応募作品は、時代の要請から木造や伝統に関連した作品が多かったように思う。もちろん作品として設計者の実現したい目標に合致すれば良いのだが。

前回の講評にも書かせてもらったが、歴史的建造物には今後も受け継ぐべき多くの考え方や手法があり、福井という歴史文化・風土に深く関与している。その中で、特に仕上げに関係する「納まり」や「割付」について言及すべきと考える作品が多かった。これは、単に見えの問題だけでなく、建築を長持ちさせ、材料を効率的に使用することと大きく関係する。それは、最終の仕上がりまでを図面でしっかり確認できているか、にも深く関係する。

木造では、真壁と大壁の調整、芯ずれの適切な使用によって、仕上がりが大きく変わったであろう作品が多かった。

これらは、文字で表現することは難しい部分であるが、大事にしていきたい。そして、これらのことを頭に置きながら私なりの審査基準を設け、応募要項にある審査基準を根底に据えて「ものづくり」と

今回の審査では、「福の家」の取り組みに特に関心を持ちました。施主、設計者、施工者の正真正銘のトータルコラボレーションが図られた住宅で、昨今の分業体制下では得難くなった物づくりの熱い成果と魅力を生み出していました。こういった取り組み方が実践出来るのも福井の魅力であり、新たな可能性も感じました。「浜町一乃松」においても同種のコラボレーション効果と成果を感じ取ることが出来ました。

評価には様々な視座があり、評価の優劣は後から付いてくるものです。まずは積極的に御参加ください。今回、初めて応募された方も増加し、新たな活気も感じられました。またこうした賞は永く継続することが重要です。選出された多くの作品群が、福井らしさという多様で重い課題に対してもその拠り所を指し示してくれると信じます。

しての建築という姿勢で審査を行った。

なお、設計者・施工者・施主との信頼関係があって建築賞への応募ができる。このことは建築に携わる技術者として喜ばしい限りである。

### 2. 入賞作品の講評

#### (1) 大規模建築部門

##### ① 認定こども園 大野幼稚園

この園舎は寺院の境内に建てられ、南は道路、北は墓地に接している。最大の魅力は、東西に細長い敷地の園舎で必要となる移動空間・長い廊下を、子どもたちにとって魅力的な活動空間へと変貌させていることにある。この構成により、園舎全体が保育施設としての一体感が実現されている。

欲を言えば、北側に配置された保育室の墓地側の窓の視覚的抜けや、西側道路側の丸や三角などの窓が室内からもきれいに見えるような構造システムに工夫が欲しかった。

##### ② 越前市武生中央公園総合体育館

体育館の建替え計画である。南側のダイナミックで特徴的な外観の体育館から、軽快な外観へと変化した。主用途であるアリーナ、及び他の機能を包括した全体構成もよくまとまっている。

計画で重視され、目に付く内部空間に取り入れて



いる地元の伝統産業の表現を見ると、伝統手法の素晴らしさを生かす作品としての割付・設置方法などの計画に疑問がある。また、玄関前の停車位置と玄関底との機能上の関係、底の柱と階段との位置関係についても疑問が残るのが惜まれる。

### ③金井学園体育館

ゆったりとした玄関ポーチと一体となり、付属施設を取り込んで施設全体に架けられた湾曲する大きな屋根が、東側の道路からのアイストップとして有効に計画されている。大規模な体育館のボリュームを感じさせないように、材料の選択や意匠で壁面が計画されているが、やはり周辺への圧迫感が大きいことが惜まれる。

### ④道の駅西山公園

西山公園の西側の整備を、公園の高台に上るEVを含んだ道の駅として実施された。湾曲した大きな庇、分節的な構成は、景観への配慮として理解できる。ただEVまでのわかりやすい動線計画、EVシャフトを備えながら公園の裾野にひっそりと佇む形態の構成、高台からの見下ろした時の景観、などの工夫が欲しかった。

## (2) 中小規模建築部門

### ①浜町一乃松

伝統的な数寄屋風の意匠で建てられた、和食を提供する飲食店である。準防火地域での建設のため、正面を中心として数寄屋風の「衣装」を纏っている。内部も全体に渡って様々な数寄屋風の手法でまとめられ、その意気込みはしっかり伝えられている。

ただ、外部では衣装としての数寄屋が構造的な役目から解放された結果、本来の伝統的な形態とは異なった構成が見られ、他にも伝統的な数寄屋の手法に則っていない部分があったことが惜まれる。

### ②リノベーション Y BLDG.

交通量の多い国道西側に面した敷地に建っていたS造のラーメン店を、11年前に5つの貸事務所に再生したものである。

国道を北進すると、敷地南の駐車場越しに東西に長いファサードが良く眼に入る。再生に際し、建物正面（南面）に新設された高さの異なる界壁と庇によって、各事務所の独立性を高めている。当時の世

情を思えば、時代を先取りした再利用と言えよう。

車からの視点を考えると、高さの異なる界壁のリズムをより強調した意匠であれば、より整った構成となったと思われる。

### ③はるえ東ファミリー歯科

新設の小学校の周囲に形成された住宅地の一角、小学校の南に建てられている。この敷地を考え、住宅のスケールを逸脱しないように計画された形態は共感が持てる。適切な温熱計画が施され、内部の木の造作にも適切な気遣いが伺われる。

ただ、西面の設備機器の処理、北面（学校側）の閉鎖性、診察スペースの位置等に工夫が欲しかった。

## (3) 住宅建築部門

### ①福の家

施主自らが設計・施工した自宅で、伝統的な木造住宅の空間・材料・手法などへの意欲と確かな技術が見られる。設計に3年をかけ、木材などの県産材の調達・施工・完成まで、関わる職人の技術によって住宅は「建て」られることを新たな視点で示している。これらは、住宅を建てる時には「あたりまえ」であったはずだが。

落ち着いた空間の中に、視線の処理、通風に対する開口部の工夫などもしっかり実現されている。ただ、妻入とした正面外観中央部の意匠に疑問が残る。

### ②宝永の長屋

母家南の庭園の一角に建てられた2つの方形屋根を連ねた平屋建の離れである。低く押さえられた深い軒と、白い壁と傾斜した垂木・野地板を内部に見せた落ち着いた空間を見せている。

ただ、母家側の外観構成、軒高の微妙な差の調整、及び壁面等の平滑部と木部とをどのように納めるかについて、伝統的建築を参考にしていきたい。

### ③越前の住宅

農村に建つ伝統的形態の住宅に、新しい形態を挿入する手法を用いた増改築である。既存住宅とは異なった明るい空間により、計画の目的であった住宅の中心となる場所は見事に実現できている。

ただ、外観に現れた既存住宅との接合部や、挿入空間の内部に残された既存住宅の梁や束も痛々し

く見えた。将来、挿入空間が主体となる構想であることから、既存住宅をいたわりながら、挿入空間は新しい材のみで構成した方が心地よいように思える。

#### ④長泉寺町の家

背面に傾斜のある緑地に護られた庭園を築き、前面に広い庭を設け、住宅は道路から離れた位置に建てられている。外観はおとなしい色彩でまとめ、素

材の種類や張り方で変化を与えた構成を見せる。内部は木を多く表し、S造の瀟洒な階段がアクセントとなっている。

設計者の意欲がこれでもかと現れているが、壁面等の平滑部と木部とをどのように納めるかを含めてもう少し手法を整理した方が意図が良く実現できたのではと思われる。

## ■ 第8回ふくい建築賞 講評

審査委員 清水 俊貴（福井工業大学准教授）

以下、最優秀、優秀、奨励賞と選定された各作品について、三つの審査過程（書類審査、現地審査、公開審査）にて考えたこと、選択した理由について述べます。

### 大規模建築部門

#### 1. 認定こども園 大野幼稚園

ネットロフトや、前面道路を眺める様々な大きさや高さの窓を、施設の中心である長い真っ直ぐな廊下に集中的に配していることで、敷地のポテンシャルを素直に引き出しています。結果、園児にとっての楽しさを反映するかのような外観が道路沿いに広がり、施設の楽しさが伝わります。反面、道路に向かってのみ開かれている方向性について、お寺という歴史のある場所を、保育施設として意識した平面や開口部、素材に表現できなかったとも考えました。難しい課題ではあります。

#### 2. 越前市武生中央公園総合体育館

地域の豊かさを、越前市を代表する伝統産業を用いた内外の意匠的表現に置換する試みに興味を持ちました。反面、書類審査現地審査とも表面的な仕上げに関するプレゼンに偏りがちだったことが気になりました。もっとアリーナそのものや、平面や構造に関する工夫の話も聞きたいと強く感じました。公園に面するエントランス側の扱いや、住宅側に面した開口部のあるランニングスペースなどの使い方など、日常生活や使用が体育館設計に反映されているかのような、検討や工夫を感じる設計箇所があったからです。

#### 3. 学校法人金井学園 体育館

不整形な敷地に整形なアリーナを配置するプランニングの解決方法として、平面的にも立体的にも屋根をうねらせることで、ロビー空間を生み出しつつ、シンプルだけどインパクトのあるアイストップを、屋根とボリュームによって作り出していることが魅力です。公共性の高い学校建築の役割、気積の大きな建築物だからこそ実現できるランドスケープを評価します。

#### 4. 道の駅 西山公園

現地審査にて、たくさんの人にこの建物が利用されていることを実感して「もっと」の部分の工夫検討ができなかったか気になりました。建物と山側の間のスペースの扱いや、雑然と自動販売機が並んでいる、妻側立面の扱いがとても気になりました。今後も利用者の多い施設であると思うので、必要ところはメンテ改修しながら、楽しい施設として続いて欲しいと願います。

### 中小規模建築部門

#### 1. 浜町一乃松

伝統的な建物が消えつつある浜町の中で、しかも法規制による防火的な制約を求められる中心市街地において、現代の技術が実現した不燃木材を用いることで、伝統的な設えの建物をあらたにつくる試みを評価しました。古来よりの京町家的な数寄屋空間を福井の中心市街地につくる、優れた文化を取り入れ、風土に根付かせようとする姿も福井らしさの一つと考えます。素材はもちろん、部材や空間寸法の選定決定して、京町家の持つ小さなスケール感を実現していることも魅力的です。

#### 2. リノベーション Y BLDG.

ロードサイド店舗の転用リノベーションを設計者が自ら投資して、オーナーとなっている「まいパブ

リック」を評価します。ただし賃貸物件としてリノベーション後の建物のイメージを作り出す意匠表現や、素材の扱い方にさらなる検討があってよいと考えます。

### 3. はるえ東ファミリー歯科

木の素材感のある、小さなスケール感の内部空間と、のびのびした開口部や平面構成に、歯科クリニックとして緊張感を通院者に感じさせない設計工夫を感じました。ただ内部において自然光と照明の明度差を強く感じました。屋外における、設備のベントキャップの集中配置した立面と通院者エントランス立面とのギャップなど、本来的に歯科にとって必要とされる特徴を、隠すなり表現するなり、もう少し積極的な工夫ができなかったかと気になりました。

## 住宅建築部門

### 1. 福の家

自身が大工であり施工業者である故に、住宅であると同時にモデルハウスであり、住まいであると同時に「店」でもあること。肯定的に捉えれば社会に対しての公的な提供を、住宅内において表現している「マイパブリック」な要素が強い、より強く意識された住宅といえます。広い敷地、ゆったりとした間取り、丁寧な仕事、人があつまる前庭…などマイパブリックを、福井の人が納得するような素材や、スケール感、仕事の精度などでまとめていることに、設計者がつくる建築とは異なる、福井らしい建築の面白さを感じました。

### 2. 宝永の平屋

方形の屋根の下に広がる、尺度や素材の選択による空間や、ガレージから土間を介してつながる奥行のあるリビングによる、前面道路や周囲と切り離された、落ち着きある世界をつくっていることに魅力を感じます。反面、最もパブリック性の高い前面道路に面した車庫シャッターによる立面、母屋との間の庭に面する外部立面等に、外的公的なつながりに対してどう向き合うか、立面や素材の扱いに、今少しの工夫ができなかったか、気になりました。

### 3. 越前の住宅

今回、僕が最も福井らしさを感じた建築です。タイムカプセルを埋め込んだような建築。仏壇を開く

ための新しい、仏壇のための空間をつくっている。新しい空間（仏間）を軸として、さらに新しい空間を展開する基準を作り出している。宗教心の厚い福井らしい施主の要望を起点に、既存の仏間形式に囚われずに、新しい空間を接続することで、仏壇を介して過去と未来を接続しようとする設計の試みを評価します。改修部分を独立した構造として切り離しつつ、現時点において既存住宅と新築部分がぶつかり合い、直接的に混じり合うディテールを実現していることが魅力です。

### 4. 長泉寺町の家

私自身が設計者として、非常にポテンシャルのある羨ましい敷地だと感じました。敷地のポテンシャルをどう引き出し使い切るか、どう見せるかが設計の要になるとすると、外部、内部の表現共に、とても饒舌な空間だとも感じました。擁壁を背にして、かつ擁壁や背後の木々を眺めることをメインとするならば、もう少しシンプルで寡黙な仕上げや空間の選択であっても良かったのかもしれませんが。でもミニマルに振らず、多様でかつ丁寧な選択が多いことが豊かさにつながっているとも感じました。家族にとり愛着が持てる建物になっていることに魅力を感じます。

以上、三つの部門の私の選評理由です。

審査2年目の今年、3つの部門別とせず、点数を付けました。結果、賞というイベントの形式に即した採点方法だったのか、反省や今後の検討が僕なりにあります。

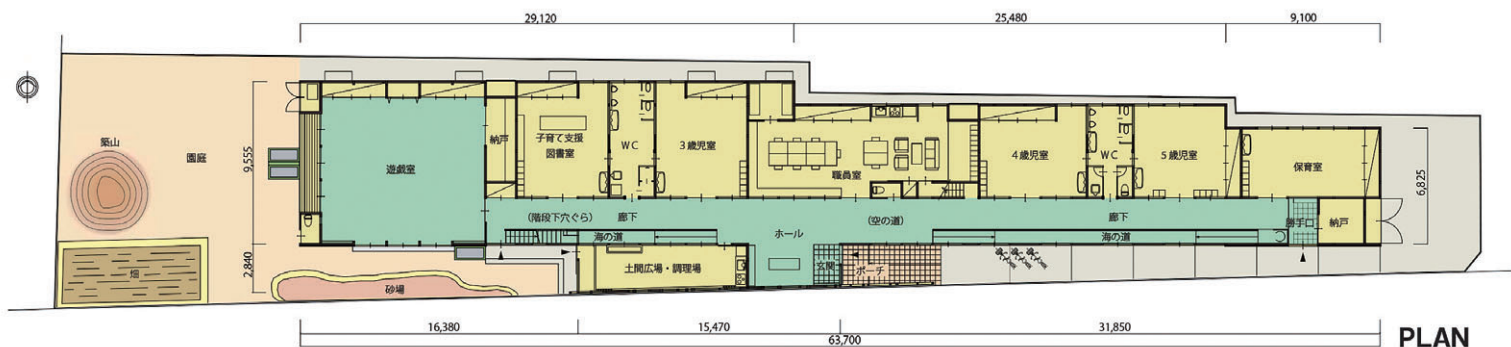
最後になりますが公開審査の講評について、会場で点数をつけた理由、審査員が選択した理由を述べたり、議論する時間をもう少し確保できれば良いな、と考えます。

そのもう少しの時間が、必ず今後のふくい建築賞が活性化していくための、種の時間になります。





南側外観：森をイメージした玄関は柱をランダムに配置し木々の親近感を表現しました



## 【最優秀賞】 認定こども園 大野幼稚園

設計監理：(有)西川建築設計事務所 西川国夫  
 構造担当：(株)木構堂  
 電気担当：ヒコ設備計画  
 設備担当：サワサキ設備設計事務所  
 施工：建築：(株)長崎組・井尾建設(株) JV  
 電気：前田電気(株)  
 空調衛生：三谷設備(株)

建築位置：大野市明倫町  
 工期：'18年7月～'19年3月  
 構造規模：木造・地上2階  
 敷地面積：1,043 m<sup>2</sup>  
 建築面積：603 m<sup>2</sup>  
 延べ面積：673 m<sup>2</sup>

～継承と進化～をコンセプトに創立100周年と長い歴史のある大野幼稚園の旧校舎の名残りを感じさせながら新しいものを取り入れた学び舎を目指した建て替えです。

東西に細長い敷地のため旧園舎では南側に並んで配置された保育室を長い廊下でつないでおり廊下が第2の遊び場として子ども達に親しまれていました。

この長い廊下を残してほしいという意見が多く新園舎では動線は長くなってしまうますが旧園舎で北側に配置されていた廊下を道路側となる南側に配置することで「遊べる廊下」として新園舎の“顔”としました。光が降り注ぐ長い廊下では子ども達が駆け回り笑い声がこだまする園舎となりました。



恐竜が口を開いたような入口



みんなで楽しく遊べる遊戯室



廊下上部に広がるネット遊具の空の道



階段下の穴蔵に続くスロープ状の海の道

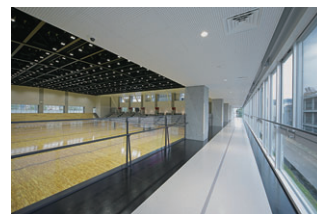
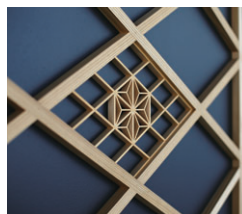
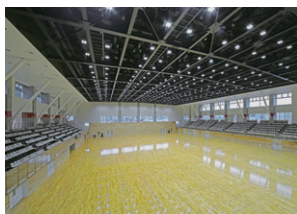


## 【優秀賞】 越前市武生中央公園総合体育館

設計監理：(協)福井県建築設計監理協会・(有)田辺建築事務所 設計・監理共同企業体  
佐々木基之・田邊 勉・水上 諭  
施 工：田中建設(株)・(株)キハラコーポレーション・北信建設(株)・  
(株)竹内工務店 特定建設工事共同企業体

建築位置：越前市高瀬  
工 期：'15年8月～'17年9月  
構造規模：SRC造 一部S造・地上2階  
敷地面積：18,086 m<sup>2</sup>  
建築面積：5,651 m<sup>2</sup>  
延べ面積：7,268 m<sup>2</sup>

越前市の伝統産業のエレメントを建物にちりばめた。  
一般利用者、選手、管理者、各動線が錯綜する事の無い明快な平面計画。  
機能の集約により無駄のない明快なブロックプランとして、スポーツ施設にとられない多角的な運用を想定した、利用し易く、管理し易い施設となっている。市民が親しみを持ち、より多くの市民がスポーツやイベントに関わるよう願いが込められている。



## 【奨励賞】 学校法人金井学園 体育館

設計者：(株)木下設計  
木下賀之・室田淳一  
施工者：村中建設(株)



## 【奨励賞】 道の駅 西山公園

設計者：(有)高田建築事務所 高田健一郎  
(有)アーキズム建築設計事務所  
瀬戸川信之・羽場千尋  
施工者：丹羽建設工業(株) (株)伍代工務店 (有)淡海建設  
(株)富士土建 (株)ガード







【最優秀賞】 浜町 一乃松

設計監理：(株)走坂建築設計事務所 走坂俊和  
施 工：北信建設(株)

建築位置：福井市中央  
工 期：'16年5月～'16年9月  
構造規模：木造・地上2階  
敷地面積：231㎡  
建築面積：162㎡  
延べ面積：291㎡



当建築物は、老舗の料亭が軒を連ねる福井市浜町に計画した。「いつか数寄屋風の建物で、先斗町にある様な料理屋を経営したい」という施主の夢を形にしたものとなっている。

油団や越前瓦など福井の伝統技術や文化を多数取り入れ、数寄屋のエッセンスを取り入れた内部空間、四季を感じることのできる中庭、坪庭などを眺めながら本格的な懐石料理を楽しむことができる。



## 【優秀賞】 リノベーション Y BLDG.

設計監理：吉田設計 吉田修二郎  
施工：石黒建設株式会社

建築位置：福井市別所町  
工期：'10年12月～'11年4月  
構造規模：鉄骨造・地上2階  
敷地面積：1,240㎡  
建築面積：253㎡  
延べ面積：299㎡

古くなるほど品がにじみ出て美しくなる建物を、現代に通じるモダンさで追求しています。



## 【奨励賞】 はるえ東ファミリー歯科

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所 伊藤瑞貴  
施工者：榎深谷





## 福井の良材と職人の技が詰まった家

【最優秀賞】

### 福の家 (事務所兼自宅)

設計監理：建築工房 英  
中村英二

施工：建築工房 英

建築位置：福井市福  
工 期：'16年9月～'18年12月  
構造規模：木造・地上2階  
敷地面積：410㎡  
建築面積：122㎡  
延べ面積：197㎡



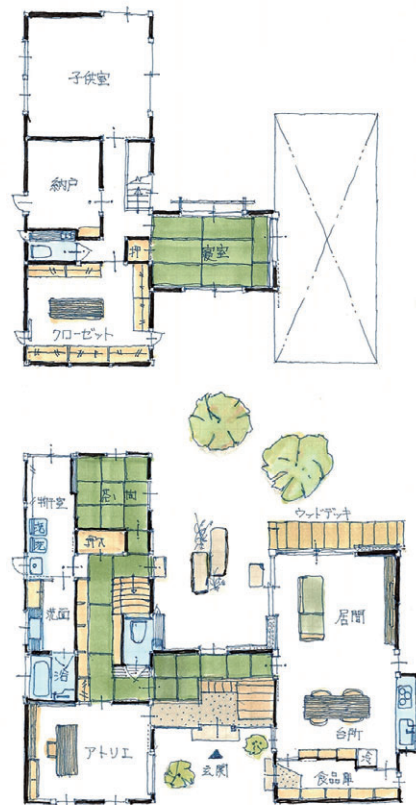
福井は四季の変化に富んだ暮らしやすい地域です。年間を通して気温湿度が高く、冬場もまちが凍りつくことはまれ。気候風土に逆らわず、なじむ家を目指しました。

地元には良い材料がたくさんあります。杉をはじめとした木材・笏谷石・越前和紙・漆喰・越前焼。この建物では、この土地に長く伝えられてきた良材をふんだんに活かしました。そしてそれらを扱う職人たちの存在。良材と共に優れた技もこの家には継承されています。

建物には、可能な限り“福井の木”を使いました。旬の伐採・葉枯・自然乾燥と人の手がかけられた県産材は、ツヤ・腰・重さがあり、美しく生き生きとしています。

これらに墨をつけ、1本ずつ丁寧に刻みました。材の個性を生かし、しっかりとした仕口と継手でくみ上げ、粘り強い建物となりました。

この家で四年暮らしてみても、良材がもつ力をあらためて実感しています。お客様が、玄関に入るなり「いい香りがする！」と言ってくださいます。子どもたちの友人が来ると、リビングの床に腹這いになって遊びます。娘たちは、本棚の前では畳敷きの廊下に座ったり、階段に腰掛けたりして読書を楽しんでいます。『家が、暮らしを豊かにする。』私が追い求める形です。





## 【優秀賞】 宝永の平屋

設計監理：野路建築設計事務所 野路敏之  
施 工：榊木だて家

建築位置：福井市宝永  
工 期：'19年8月～'20年2月  
構造規模：木造・地上1階  
敷地面積：447㎡  
建築面積：146㎡  
延べ面積：140㎡



## 【優秀賞】 越前の住宅

設計監理：水上哲也建築設計事務所 一級建築士事務所  
水上哲也  
施 工：水上建設(株)

建築位置：越前市  
工 期：'16年7月～'17年1月  
構造規模：木造・地上2階  
敷地面積：550㎡  
建築面積：31㎡  
延べ面積：42㎡



【優秀賞】長泉寺町の家

設計監理：atelier-fos一級建築士事務所  
青木一実

施工：サカイ建設不動産㈱

建築位置：鯖江市長泉寺町  
工期：'19年6月～'20年1月  
構造規模：木造・地上2階  
敷地面積：347 m<sup>2</sup>  
建築面積：85 m<sup>2</sup>  
延べ面積：124 m<sup>2</sup>

